

2008 年度

科目名 日本文学史Ⅳ	対象学科・学年 文学部日文2回生	担当者 高橋 圭一
授業テーマ 近世中期文学の色々。		
授業の概要と目標 近世前期の文学を代表する井原西鶴は講読で取り上げました。後期の文学を代表する読本はほとんどが長編で、短い時間で紹介するには不向きです。この授業では、比較的短編が多く、内容的にもバラエティーに富んだ近世中期文学、いわゆる天明文学の種々の作品を紹介します。その理由は講義の中で明らかにしますが、私はそれらを最も江戸らしい作品群であると考えています。江戸情緒に浸って欲しいと思います。		
評価方法 講義の最後に行う試験によって評価します。出席も加味します。		
テキスト 使用しません。毎回プリントを配布します。	著者	出版社
参考書 講義中、随時紹介します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1、天明文学概説。それは、お江戸で生まれた。 2、 続き。 3、和歌のパロディ、狂歌について。天明文学の嚆矢。 4、 続き。四方赤良（大田南畝）を中心に。 5、漢詩のパロディ狂詩について。寝惚先生（大田南畝）を中心に。 6、 続き。この回のみ、上方の作家が登場します。銅脈先生（畠中観斎）の『太平楽府』。 7、天明文学の指導者、大田南畝について。 8、天明文学の華、黄表紙について。概説。 9、 続き。芝全交作『大悲千祿本』（ダイヒノセンロッパ）紹介。 10、 続き。 11、天明文学の粹、洒落本について。概説。 12、 続き。山東京伝作『傾城買四十八手』紹介。 13、 続き。 14、天明文学の雄、山東京伝について。 15、私の専門から小説に偏りますので、学問（国学）・演劇・漢詩文いずれかの専門家に一度ゲストとして、講義をお願いする予定です。		